

带状疱疹の予防接種についての説明書(オモテ面)

■ 带状疱疹の予防接種を希望される方は、この説明書を必ずご確認ください

1. 带状疱疹とは

- ◆ 带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに带状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。
- ◆ 带状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

2. 定期接種の対象となる方

- ① 令和7年度中に満 65 歳を迎える方。
- ② 60～64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。
- ③ 令和7年度から令和11年度までの5年間の経過措置として、その年度内に70、75、80、85、90、95、100歳※となる方も対象となります。※ 令和7年度に限り、100歳以上の方は、全員対象です。

3. 使用するワクチンと注意が必要な方

- ◆ 带状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、組換えワクチン（GSK社：シングリックス）の2種類があり、医師と相談の上で、いずれかを選択して接種します。
- ◆ 接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれのワクチンも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	生ワクチン(阪大微研)の場合	組換えワクチン(GSK社)の場合
接種回数(接種方法)	1 回 (皮下に接種)	2 回 (筋肉内に接種)
接種スケジュール (接種間隔)	生ワクチンの場合 接種回数が1回のため、 接種スケジュール(接種間隔)は ありません	組換えワクチンは、通常、2か月以上* の間隔を置いて2回接種します。 * 病気や治療により、免疫の機能が低下した または低下する可能性がある方等は、医師が 早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔 を1か月まで短縮できます。
接種できない方	病気や治療によって、免疫が低下して いる方は接種出来ません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が 必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受け た方は治療後3か月以上、大量ガンマ グロブリン療法を受けた方は治療後6 か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症 や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実 施されている方は注意が必要です。

- ◆ 接種前に発熱を呈している方、重篤な急性疾患に罹っている方、それぞれの予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方、その他予防接種を行うことが不適当な状態にあると医師が判断する方等はいずれのワクチンも接種出来ません。
- ◆ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方、けいれんを起こしたことがある方、免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、带状疱疹ワクチン（生ワクチン、組換えワクチン）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方等はいずれのワクチンについても接種に注意が必要です。

■ ウラ面に続きます 必ずご一読ください

帯状疱疹の予防接種についての説明書（ウラ面）

□ オモテ面からの続きです 必ずご確認ください

4. 帯状疱疹ワクチンの効果

		生ワクチン(阪大微研)の場合	組換えワクチン(GSK社)の場合
帯状疱疹に対する ワクチンの効果 (報告)	接種後 1 年時点	6 割程度の予防効果	9 割以上の予防効果
	接種後 5 年時点	4 割程度の予防効果	9 割程度の予防効果
	接種後 10 年時点	—	7 割程度の予防効果

* 合併症の1つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組替ワクチンは9割以上と報告されています。

5. 帯状疱疹予防接種による副反応

- ◆ ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。
- ◆ 接種後に気になる症状は、接種した医療機関へ速やかにお問い合わせください。
- ◆ ワクチンごとの主な副反応と発現率は、次のとおりです。

	生ワクチン(阪大微研)の場合	組換えワクチン(GSK社)の場合
70 % 以上発現	—	疼痛*
30 % 以上発現	発赤*	発赤*、筋肉痛、疲労
10 % 以上発現	そう痒感*、熱感*、腫脹*、疼痛*、硬結*	頭痛、腫脹*、悪寒、発熱、胃腸症状
1 % 以上発現	発疹、倦怠感	そう痒感*、倦怠感、その他の疼痛

*ワクチンを接種した部位の症状 各社の添付文書より厚生労働省にて作成

6. 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

- ◆ いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナウイルスワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。
- ◆ 生ワクチン(阪大微研)については、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種してください。

7. 接種後に注意すること

- ◆ ワクチンの接種後30 分程度は安静にしてください。
- ◆ 体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
- ◆ 注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
- ◆ 当日の激しい運動は控えるようにしてください。

8. 予防接種の副反応による健康被害救済制度 と 相談窓口

- ◆ 予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。
- ◆ 制度の利用を申し込む時は、予防接種を受けた時に住民票を登録していた市町村にご相談ください。
- ◆ 制度の利用の申し込み（請求）には、期限があります。あわせて予防接種を受ける前後のカルテなど、必要となる書類があります。必要な書類は、種類や状況によって変わりますので、福祉保健課 健康増進担当(☎0556-20-4611)にご相談ください。

■ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口 ☎ 0120-469-283 ● 受付 9:00~17:00 (土日祝日、年末年始を除く)

■ 身延町役場 福祉保健課 健康増進担当 ☎ 0556-20-4611 ● 受付 8:30~17:15 (土日祝日、年末年始を除く)